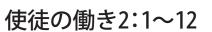
ペンテコステ





2:1~12 五旬節の日になって、みなが一つ所に集まっていた。すると突然、天から、激しい風が吹いてくるような響きが起こり、彼らのいた家全体に響き渡った。また、炎のような分かれた舌が現われて、ひとりひとりの上にとどまった。すると、みなが聖霊に満たされ、御霊が話させてくださるとおりに、他国のことばで話しだした。

さて、エルサレムには、敬虔なユダヤ人たちが、天下のあらゆる国から来て住んでいたが、この物音が起こると、大ぜいの人々が集まって来た。彼らは、それぞれ自分の国のことばで弟子たちが話すのを聞いて、驚きあきれてしまった。彼らは驚き怪しんで言った。

「どうでしょう。いま話しているこの人たちは、みなガリラヤの人ではありませんか。それなのに、私たちめいめいの国の国語で話すのを聞くとは、いったいどうしたことでしょう。私たちは、パルテヤ人、メジヤ人、コダヤ人、またメソポタミヤ、ユダヤ、カパドキヤ、ポントとアジヤ、フルギヤとパンフリヤ、エジプトとクレネに近いリビヤ地方などに住む者たち、また滞在中のローマ人たちで、ユダヤ人もいれば改宗者もいる。またクレテ人とアラビヤ人なのに、あの人たちが、私たちのいろいろな国ことはで神の大きなみわざを語るのを聞こうとは。」

人々はみな、驚き惑って、互いに「いったいこれはどうしたことか。」と言った。

ペンテコステ(五旬節)

「七週の祭り」「刈り入れの祭り」とも呼ばれ、過越の祭に続く種を入れないパンの祭で大麦の初穂をささげてから七週間後、50日目の祭であり、この祭は、大麦の収穫の終りを告げ、同時に小麦の収穫の始まりを告げている。ユダヤの三大祭りのひとつ。



約束の聖霊



「エルサレムを離れないで、わたしから聞いた 父の約束を待ちなさい。ヨハネは水でバプテス マを授けたが、もう間もなく、あなたがたは聖 霊のバプテスマを受けるからです。」

(使徒1:4~5)

イエスは、復活後に昇天する際、弟子たちに 約束の聖霊を受けるまでエルサレムにとどまる ように教えた。

クリスチャンにとってのペンテコステ

120人ほどが、ある屋上の間で祈りに専念しながら聖霊の降臨を待っていたところ、五旬節に、聖霊が激しい響きとともに彼らに下った。 クリスチャンにとってのペンテコステは、この聖霊降臨を記念する日となった。

ペンテコステの意義

①十字架と復活の一連の贖いのわざの 完了と終結を意味

「過越の小羊」としてイエスはほふられた

②諸国の霊的刈り入れの始まり

そこで、彼のことばを受け入れた者は、バ プテスマを受けた。その日、三千人ほどが弟 子に加えられた。(使徒2:41)

③教会の始まり

そして、彼らは使徒たちの教えを堅く守り、 交わりをし、パンを裂き、祈りをしていた。

(使徒2:42)

④イエスの身体的臨在の代り

父はもうひとりの助け主をあなたがたにお与え になります。・・・その方はあなたがたとともに 住み、あなたがたのうちにおられるからです。

(使徒14:16-17)

⑤律法が聖霊によって信じる者の心の内 に刻まれた

わたしは、わたしの律法を彼らの思いの中に入れ、彼らの心に書きつける。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。

(ヘブル8:10)

⑥ヨエルの預言の成就

これは、預言者ヨエルによって語られた事です。『神は言われる。終わりの日に、わたしの霊をすべての人に注ぐ。すると、あなたがたの息子や娘は預言し、青年は幻を見、老人は夢を見る。 (使徒2:16-17)

他国のことば

五旬節の日になって、みなが一つ所に集まっていた。すると突然、天から、激しい風が吹いてくるような響きが起こり、彼らのいた家全体に響き渡った。

また、炎のような分かれた舌が現われて、 ひとりひとりの上にとどまった。すると、み なが聖霊に満たされ、御霊が話させてくださ るとおりに、他国のことばで話しだした。

(使徒2:1~4)

自分の知性を超えた力

聖書では、このことばを「異言」と呼んでいる。聖霊が、その舌を動かす神経を支配して、本人の理解できない言葉を語らせるである。異言を話さなくても、聖霊に満たされることはできるが、異言を語るという中に、聖霊に満たされるとはどういうことかが如実に表れている。

それは、**自分の知性を超えた力**が自分を支配することである。聖霊に満たされていないときは、私たちは、聖書に書かれている命令を自分の肉の力で行なおうとする。

自分で考えて、自分の努力でなんとか神の みことばを行なおうとする。けれども、それ ができない自分を発見して、葛藤を経験する。

聖霊に満たされる

聖霊に満たされると、**舵取りは自分ではなく聖 霊ご自身に**なる。何を語るべきかも、聖霊が促し、何を行なうべきかも、聖霊が語られる。

自分が考えていることを行なうのではなく、聖 霊がお考えになっていることをことごとく行なう ようになってくる。



他国の言葉で弟子たちが語りはじめたところに、聖霊に満たされることの特徴がよく表れている。よって、**教会は、集まっている一人一人が聖霊に満たされるところ**である。

自分たちが考えた計画に基づいて教会が運営されるのではなく、キリストの御霊が主権を握られて、キリストがかしらとなって、キリストが力強く導かれるところである。パウロは、「教会はキリストのからだであり、いっさいのものをいっさいのものによって満たす方の満ちておられるところです。」(エペソ1:23)と言っている。

キリストの証人ペテロの説教

イスラエルの人たち。このことばを聞いてください。神はナザレ人イエスによって、あなたがたの間で力あるわざと、不思議なわざと、あかしの奇蹟を行なわれました。それらのことによって、神はあなたがたに、この方のあかしをされたのです。これは、あなたがた自身がご承知のことです。あなたがたは、神の定めた計画と神の予知とによって引き渡されたこの方を、不法な者の手によって十字架につけて殺しました。・・・神はこのイエスをよみがえらせました。私たちはみな、そのことの証人です。

(使徒2:22~36)

教会は主イエス・キリストがどのような方か、またどのようなことをなさったのかを語るところである。牧師の説教、信徒たちの会話、地域の人々への伝道、これらすべてが、イエス・キリストを中心にしたものでなければならず、他の事柄が中心になってはいけない。

教会は、イエスを証しするために存在している。

聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。 (使徒1:8)